

表 I -2.5.1 様式-3(1):型 00-1 概査調査票：施設群総括評価用

様式-3(1) : 型00-1 概査調査票 (施設群総括評価用) 地すべり防止施設機能診断調査

※施設群として評価する場合に用いる (個別の施設として評価する場合は不要) 緯度 経度

点検年月日 / / 天候 点検者

区域名 地すべりブロック名 施設群名 施工年度 年

構造/材質 施設群構成・形状

■各施設の評価確認 個別施設の評価結果を記入し、施設群の総合的な評価を行う。(存在しない又は未確認の施設は空欄とする)

施設名				個別施設の健全度 (i~iv)	施設周辺地盤状況	個別施設の総合評価 (対応の目安)	特記事項 (個別施設状況等)
番号	(施設番号等)	個別施設名	備考(工種/構造等)	i Aのみ ii A~B含む iii A~C含む iv A~D含む	問題なし 問題あり	問題なし 監視 軽微な補修 補修・更新 要詳細調査	
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
施設群の健全度 ※ (I II III IV)							

※ 個別施設の健全度に基づいて決定する 【 I : iのみ II : i~ii含む III : i~iii含む IV : i~iv含む 】

■配置(路線)図等 施設群内における個別施設の位置関係や他施設との接続等についての図(路線図)やコメント等を記入

■総合評価 施設群全体の総合評価の該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断の目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)
問題なし	施設群全体の健全度が I である場合
監視	施設群全体の健全度が II である場合
軽微な補修	施設群全体の健全度が III である場合
補修・更新	施設群全体の健全度が IV であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合
要詳細調査	施設群全体の健全度が IV であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合
緊急対応の必要性	有 無
	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の懸念
	状況と対応策

■点検結果と対応に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

表 I -2.5.2 様式-3(1):型 O1-1 概査調査票：水路工

様式-3(1) :型O1-1		概査調査票 (個別施設記録用)		地すべり防止施設機能診断調査					
<水路工> ※工種を必ず確認		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度	経度				
点検年月日	/ /	天候		点検者					
区域名		地すべりブロック名		施設名	施工年度 年				
構造/材質		幅	高さ	延長	(調査票番号:)				
■現地確認事項									
施設状況	種類	☐ 排水路工	☐ 承水路工	☐ 暗きょ工	☐ 明暗きょ工 ☐ 他 ()				
漏水状況	流量(上流)	l/分	流量(下流)	l/分	漏水可能性 有 無 不明 ()				
流末状況	流末位置				☐ 流水あり : 流量(最大) l/分				
水質状況	計測値等								
観測施設	計測器名								
■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。									
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A~D)	
			a	b	c	d	該当写真		
本体	☐ 水路部	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.屈曲・2.ずれ(目地切れ等)・3.逆勾配						
		腐食	1.発錆						
		閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						
	☐ 暗きょ部	閉塞・埋没	1.吐口部の閉塞・2.吐口周辺の埋没						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
	☐ 集水升	変位・変形	1.ずれ(目地切れ等)・2.傾倒・3.沈下						
		腐食	1.発錆						
		閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.目地切れ・4.摩耗						
	☐ 落差工	変位・変形	1.ずれ・2.傾倒・3.沈下						
		腐食	1.発錆						
閉塞・埋没		1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他							
破損・欠損		1.欠損・2.ひび割れ・3.目地切れ・4.摩耗							
※本票で扱う工種は、排水路工、承水路工、暗きょ工、明暗きょ工とする。			③施設の健全度(i~iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]						
※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度(i~iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。									
③ ← ② ← ①			評価指標						
施設の健全度	i	部位の健全度 A	変状レベル a	: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である ……………(機能低下していない状態)					
	ii	部位の健全度 B	変状レベル b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある …(本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)					
	iii	部位の健全度 C	変状レベル c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある ……………(機能低下している状態)					
	iv	部位の健全度 D	変状レベル d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある ……………(明らかに機能低下、または機能喪失している状態)					
施設周辺地盤状況		☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない							
その他の状況									
■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。									
対応の目安		判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)							
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)								
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度がBが一つでも含まれる場合)								
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度がCが一つでも含まれる場合)								
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度がDが一つでも含まれる場合)であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合								
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合								
緊急対応の必要性	有 無	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の際	状況と 対応策						
■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等									

表 I -2.5.3 様式-3(1):型 O2-1 概査調査票：水抜きボーリング工(1)

様式-3(1) : 型O2-1 概査調査票 (個別施設記録用) 地すべり防止施設機能診断調査

<水抜きボーリング工(1)>※個々の集水ボーリングについての記録は別紙(2)

点検年月日	/ /	天候	点検者	緯度	経度
区域名	地すべりブロック名		施設名	施工年度	年
構造/材質	幅	高さ	延長	(調査票番号:)	

■現地確認事項

集水状況	流量等	☐ 乾燥 ☐ 濡れ ☐ 滴水 ☐ 流水あり	流量(最大)	l/分	問題あり
流末状況	流末位置	流水あり		流量(最大)	l/分
水質状況	計測値等	問題あり			
観測施設	計測器名	問題あり			

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。

工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする。複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A~D)	
			a	b	c	d	該当写真		
本体	水抜きボーリング※別紙にて、個々の孔ごとに評価	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.抜け・4.折れ曲がり						
		腐食	1.発錆						
		閉塞(孔口状況)	1.細菌類付着・2.植物・藻類侵入・3.その他						
		目詰まり(孔内部)	1.細菌類付着・2.植物・藻類侵入・3.その他						
付帯施設	☐ 導水パイプ	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.抜け・4.折れ曲がり						
		閉塞(孔口状況)	1.細菌類付着・2.植物・藻類侵入・3.その他						
	☐ 孔口保護工	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.目地切れ・4.摩耗・5.その他						
		変位・変形	1.ずれ・2.傾倒・3.沈下						
	☐ 集水升	腐食	1.発錆						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.ずれ(目地切れ等)・2.傾倒・3.沈下						
		腐食	1.発錆						
	☐ 流末施設	閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.抜け・4.折れ曲がり・5.摩耗						
		変位・変形	1.屈曲・2.ずれ(目地切れ等)・3.逆勾配						

※孔内部の目詰まり状況は、検尺棒挿入等の調査を行った場合のみ評価する。

③施設の健全度(i~iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]

※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度(i~iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。

③ ← ② ← ①					評価指標
施設の健全度	i	部位の健全度	A	a	: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である …………… (機能低下していない状態)
	ii		B	b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある … (本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)
	iii		C	c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある …………… (機能低下している状態)
	iv		D	d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある …………… (明らかに機能低下、または機能喪失している状態)

施設周辺地盤状況	☐ 施設機能に影響する変状がある	
	☐ 施設機能に影響する変状がない	
その他の状況		

■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)		
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)		
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)		
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)		
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合)であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合		
要詳細調査	施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合		
緊急対応の必要性	有 無	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の懸念	状況と対応策

■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

注意： 概査では、各ボーリング 1 本 1 本の流量計測や検尺棒挿入を必ずしも実施しなくともよい。検尺棒挿入を実施しない場合には、「目詰まり(孔内部)」の項目に関する欄は記入しなくてよい。

表 I -2.5.4 様式-3(1):型 O2-2 概査調査票：水抜きボーリング工(2)

様式-3(1) :型O2-2 概査調査票(個別施設記録用) 地すべり防止施設機能診断調査

<水抜きボーリング工(2)>※各集水ボーリング孔の状況記録用調査票

緯度 経度

点検年月日 / / 天候 点検者

区域名 地すべりブロック名 施設名 施工年度 年

構造/材質 備考(形状・段数等) (調査票番号:)

■個々のボーリング孔の点検結果 当てはまる状況に「○」と記入し、その他必要事項を記録する。(孔内部目詰まり状況は検尺棒を実施した場合のみ評価)

孔番号 ※原則、左から順番に、 番号を付ける	集水状況 (目視にて、当 てはまる状況 に「○」)	流量 (l/分) ※計測 可能な 状況で あれば 測る	孔口閉塞状況						孔内部目詰まり状況				健全 や や 詰 ま っ て い る	コメント (破損状況・水 質・その他状 況)			
			付着度※						検尺棒 (実施ならぼ○)		検尺棒 挿入長さ (=目詰まりを 起こした箇所 の孔口からの 距離) (m)						
番号	各集水ボーリング 孔の施工延長 (m)	乾燥	濡れ	滴水	流水 あり	A	B	C	D	E	F	細 菌 類	植 物・ 藻 類	その他			
1																	
2																	
3																	
4																	
5																	
6																	
7																	
8																	
9																	
10																	
11																	
12																	
13																	
14																	
15																	
16																	
17																	
18																	
合計						0	0	0	0	0	0	0			0	0	0

■部位の変状レベル評価 個々のボーリング孔の点検結果を集計し、全体としての閉塞と目詰まりについての変状レベルを評価する

閉塞状況	付着度A・B・Cの孔数/全孔数	本 / 本	%	判定
孔口の付着度の決定方法 下記の考え方に沿って目分量で閉塞割合(付着度)を判断する $\text{孔口の閉塞割合} = \frac{\text{孔口断面に占める閉塞物の断面積}}{\text{孔口断面積}} \times 100(\%)$ 付着度A: 孔口の閉塞割合 70%以上 付着度B: 孔口の閉塞割合 50~70% 付着度C: 孔口の閉塞割合 30~50% 付着度D: 孔口の閉塞割合 10~30% 付着度E: 孔口の閉塞割合 10%未満 付着度F: 孔口の閉塞物なし				

変状レベル: 孔口閉塞の判定基準:
 a = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の0%(D,E,Fのみ)
 b = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の25%未満
 c = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の25%以上50%未満
 d = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の50%以上、または、崩土や湛水等で埋没・水没している

目詰まり状況	「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数/全孔数	本 / 本	%	判定
孔内部の目詰まり状況の判定の目安 (検尺棒を実施した場合のみ評価) 「詰まっている」…検尺棒等を挿入できなくなる場合 「やや詰まっている」…検尺棒等を最後まで挿入でき るものの抵抗が大きい場合				

変状レベル: 孔内部目詰まりの判定基準:
 a = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の0%(目詰まりなし)
 b = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の25%未満
 c = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の25%以上50%未満
 d = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の50%以上

注意： 概査では、各ボーリング 1 本 1 本の流量計測や検尺棒挿入を必ずしも実施しなくともよい。必要に応じて本調査票の欄を活用すること。また、概査だけでなく詳細調査時などにも本調査票を利用できる。

表 I -2.5.5 様式-3(1):型 O3-1 概査調査票：集水井工(1)

様式-3(1) : 型O3-1 概査調査票 (個別施設記録用) 地すべり防止施設機能診断調査

<集水井工(1)> 原則地表から内部を遠望目視(井内での観察時は別紙(2)(3)推奨) 緯度 経度

点検年月日 / / 天候 点検者

区域名 地すべりブロック名 施設名 施工年度 年

構造/材質 直径 井底深度 (調査票番号:)

■現地確認事項

集水状況	集水ボーリング配置確認	段 × 孔	段 × 孔	段 × 孔	目視可否	問題あり
流末状況	流末位置	流水あり	流量(最大)	l/分	水質・計測値等	問題あり
観測施設	計測器名					問題あり
安全施設	天蓋	あり	なし	点検梯子	あり	なし
				安全柵	あり	なし

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。

工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル					②部位の健全度 (A~D)	
			a	b	c	d	該当写真		
集・排水機能	集水ボーリング	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.抜け・4.折れ曲がり						
		腐食	1.発錆						
		閉塞(孔口状況)※	1.細菌類付着・2.植物・藻類侵入・3.その他						
	排水ボーリング (井外の出口にて目視確認、異常湛水は地表より水面を遠望目視)	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.抜け・4.折れ曲がり						
		腐食	1.発錆						
		閉塞(孔口状況)	1.細菌類付着・2.植物・藻類侵入・3.その他						
井筒本体	ライナープレート、補強リング、パルチカルスティフナー/ラテラルストラット	破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)						
	変位・変形	1.屈曲(傾き、ねじれ、折れ曲がり)							
	腐食	1.発錆							
底部	底張コンクリート	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.ずれ・2.傾倒						
		閉塞・埋没	1.土砂堆積・2.落葉等堆積・3.植物侵入・4.その他						
地表	地表コンクリート	破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
		変位・変形	1.ずれ・2.傾動・3.沈下						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
付帯施設	天蓋	腐食	1.発錆						
		破損・欠損	1.欠損・2.ひび割れ・3.摩耗						
	点検梯子	腐食	1.発錆						
		破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)						
	安全柵	腐食	1.発錆						
		変位・変形	1.屈曲・2.傾倒						

※集水ボーリングの「閉塞」の変状レベル判定基準は以下(井内での観察時は別紙(3)参照)
 地表から遠望目視にて孔口確認: 閉塞なし=a、閉塞あり=c、不明・目視不可=b(コメント残す) ③施設の健全度(i~iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]

※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度(i~iv)の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。

③ ← ② ← ①		評価指標	
施設の健全度	i	A	a: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である ……………(機能低下していない状態)
ii	B	b: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある …(本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)	
iii	C	c: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある ……………(機能低下している状態)	
iv	D	d: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある ……………(明らかに機能低下、または機能喪失している状態)	

施設周辺地盤状況 ☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない

その他の状況

■総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。

対応の目安	判断目安(原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)
問題なし	施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)
監視	施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)
軽微な補修	施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)
補修・更新	施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合) であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合
要詳細調査	施設の健全度が iii または iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合(井内観察が必要な場合等)

緊急対応の必要性 ☐ 有 ☐ 無 【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生の懸念

状況と対応策

■点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等

表 I -2.5.6 様式-3(1):型 O3-2 概査調査票：集水井工(2)

様式-3(1) :型O3-2 概査調査票(個別施設記録用)【参考】 地すべり防止施設機能診断調査

<集水井工(2)> 井筒本体の変状を部位ごとに記録し、調査票(1)に反映 緯度 経度

点検年月日 / / 天候 点検者

区域名 地すべりブロック名 施設名 施工年度 年

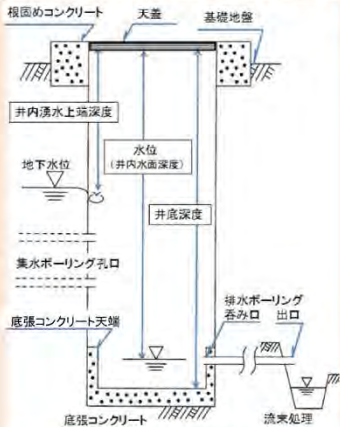
構造/材質 直径 井底深度 (調査票番号:)

■部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。その他必要事項記入後、評価を行う。

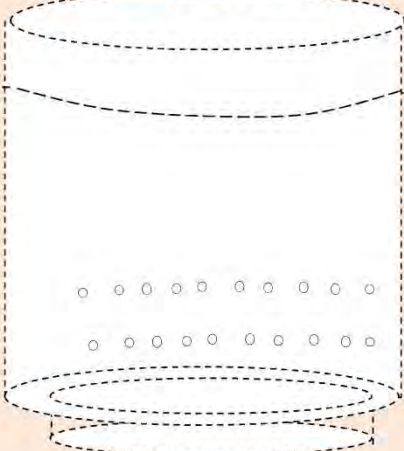
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	変状レベル				部位の健全度	
			a	b	c	d		
井筒本体	□ ライナープレート	破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)					
		変位・変形	1.屈曲					
		腐食	1.発錆					
	□ 補強リング	破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)					
		変位・変形	1.屈曲					
		腐食	1.発錆					
	□ パーチカルスティフナー	破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)					
		変位・変形	1.屈曲・2.ねじれ					
		腐食	1.発錆					
	□ ラテラルストラット	破損・欠損	1.欠損・2.亀裂・3.破断・4.ボルト等の緩み(脱落)					
		変位・変形	1.屈曲					
		腐食	1.発錆					

※ 最も悪い項目・状況を井筒本体の変状レベルとして調査票(1)に反映する 井筒本体の健全度(A~D):

■現地確認事項(スケッチ等) 必要に応じて、井内壁面状況等のスケッチや目視困難箇所等に関するコメントを記録する。



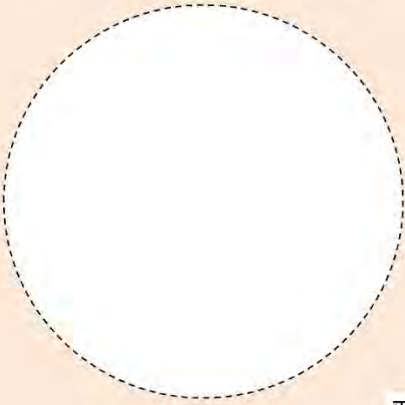
変状の顕著な箇所



<変状の特徴>

①
②
③
④

※パーチカルスティフナーの配置・変形等を上から観察



平面図

注意： 概査では、必ずしも本調査票を利用する必要はない。詳細調査時など井内観察が可能な場合に本票を利用できる。

表 I -2.5.7 様式-3(1):型 O3-3 概査調査票：集水井工(3)

様式-3(1) :型O3-3 概査調査票(個別施設記録用)【参考】 地すべり防止施設機能診断調査

＜集水井工(3)＞		各集水ボーリング孔の状況記録用調査票		緯度	経度
点検年月日	/ /	天候	点検者		
区域名		地すべりブロック名	施設名	施工年度	年
構造/材質		備考(形状・段数等)	(調査票番号:)		

■個々のボーリング孔の点検結果 当てはまる状況に「○」と記入し、その他必要事項を記録する。(孔内部目詰まり状況は検尺棒を実施した場合のみ評価)

孔番号 ※原則、左から順番に、 番号を付ける		集水状況 (目視にて、当 てはまる状況 に「○」)			流量 (l/分) ※計測 可能な 状況で あれば 測る	孔口閉塞状況						孔内部目詰まり状況				コメント (破損状況・水 質・その他状 況)			
						付着度※						付着物		検尺棒 (実施ならば○)	検尺棒 挿入長さ (=目詰まりを 起こした箇所 の孔口からの 距離) (m)		詰 ま っ て い る	やや 詰 ま っ て い る	健全
番号	各集水ボーリング 孔の施工延長 (m)	乾燥	濡れ	滴水 あり		A	B	C	D	E	F	細菌類	植物・藻類	その他					
1																			
2																			
3																			
4																			
5																			
6																			
7																			
8																			
9																			
10																			
11																			
12																			
13																			
14																			
15																			
16																			
17																			
18																			
合計							0	0	0	0	0	0			0		0	0	0

■部位の変状レベル評価 個々のボーリング孔の点検結果を集計し、全体としての閉塞と目詰まりについての変状レベルを評価する

閉塞状況	付着度A・B・Cの孔数/全孔数	本 / 本	%	判定
孔口の付着度の決定方法 下記の考え方に沿って目分量で閉塞割合(付着度)を判断する $\text{孔口の閉塞割合} = \frac{\text{孔口断面に占める閉塞物の断面積}}{\text{孔口断面積}} \times 100(\%)$ 付着度A: 孔口の閉塞割合 70%以上 付着度B: 孔口の閉塞割合 50~70% 付着度C: 孔口の閉塞割合 30~50% 付着度D: 孔口の閉塞割合 10~30% 付着度E: 孔口の閉塞割合 10%未満 付着度F: 孔口の閉塞物なし				
変状レベル: 孔口閉塞の判定基準: a = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の0%(D,E,Fのみ) b = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の25%未満 c = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の25%以上50%未満 d = 付着度A・B・Cの孔数の合計が全孔数の50%以上、または、崩土や湛水等で埋没・水没している				
目詰まり状況	「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数/全孔数	本 / 本	%	判定

孔内部の目詰まり状況の判定の目安

(検尺棒を実施した場合のみ評価)

「詰まっている」…検尺棒等を挿入できなくなる場合

「やや詰まっている」…検尺棒等を最後まで挿入できる

ものの抵抗が大きい場合

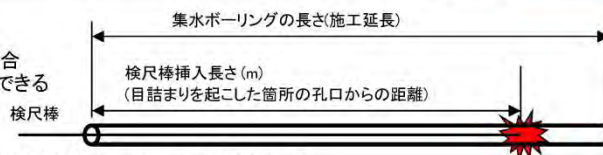
変状レベル: 孔内部目詰まりの判定基準:

a = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の0%(目詰まりなし)

b = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の25%未満

c = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の25%以上50%未満

d = 「詰まっている」「やや詰まっている」の孔数の合計が全孔数の50%以上



注意： 概査では、必ずしも本調査票を利用する必要はない。詳細調査時など井内観察が可能な場合に本票を利用できる。

表 I -2.5.8 様式-3(1):型 O4-1 概査調査票：渓流護岸工

様式-3(1) : 型O4-1		概査調査票 (個別施設記録用)		地すべり防止施設機能診断調査				
< 渓流護岸工 >		※施設群の評価は様式-3(1)型00-1		緯度	経度			
点検年月日	/ /	天候		点検者				
区域名		地すべりブロック名		施設名	施工年度 年			
構造/材質		高さ		延長	(調査票番号:)			
■ 現地確認事項								
施設状況	種類	☐ ふとん籠	☐ 片法枠	☐ 籠枠	☐ ブロック積み工			
		☐ コンクリート擁壁工	☐ 他		問題あり			
湧水状況	湧水状況	☐ 湧水あり	流量(最大)	l/分	水質・計測値等			
観測施設	計測器名				問題あり			
■ 部位の変状レベル 各項目で当てはまる状況の番号を記入し、最も悪い状態についてレベル判定する。また、判定根拠とする写真番号を示す。								
工種・部位	項目	状況 (異常な状況がない場合は0とする、複合的な状況その他の場合は9とする)	①変状レベル				②部位の健全度 (A~D)	
			a	b	c	d		
本体	☐ 護岸工	破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落・4.摩耗					
			5.破断・6.中詰材の流出(籠枠工等の場合)					
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下					
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)					
		洗掘	1.基礎地盤の洗掘					
	☐ 床固め工	破損・欠損※	1.欠損・2.ひび割れ・3.脱落・4.摩耗					
			5.破断・6.中詰材の流出(籠枠工等の場合)					
		変位・変形※	1.ずれ・2.はらみ出し・3.傾倒・4.沈下					
		腐食	1.発錆(籠枠工などの場合)					
		洗掘	1.基礎地盤の洗掘					
※破損・欠損・変位・変形に裏込め土等の流出が伴う場合は、コメントを残すこと。						③施設の健全度 (i ~ iv) [最も悪い部位の健全度に基づいて決定]		
※①変状レベル(a~d)、②部位の健全度(A~D)、③施設の健全度 (i ~ iv) の順に各々最も悪い評価を統合し、施設全体を評価する。								
③ ← ② ← ① 評価指標								
施設の健全度	i	A	a	: 項目に挙げた現象・状況が見られない、もしくは目視困難なほど軽微である ……………(機能低下していない状態)				
	ii	B	b	: 項目に挙げた現象・状況に対し軽微な変状がある …(本質的に支障はないが放置すると機能低下を招く恐れがある状態)				
	iii	C	c	: 項目に挙げた現象・状況に対し限定的(局所的)ではあるが明らかな変状がある ……………(機能低下している状態)				
	iv	D	d	: 項目に挙げた現象・状況に対し著しい変状がある ……………(明らかに機能低下、または機能喪失している状態)				
施設周辺地盤状況		☐ 施設機能に影響する変状がある ☐ 施設機能に影響する変状がない						
その他の状況								
■ 総合評価 該当する選択肢に○を付ける。点検者から施設管理者への伝達事項として「対応の目安」を示す。								
対応の目安		判断目安 (原則、判断の目安に沿って選択する。原則とは異なる選択をする場合は理由をコメント欄に必ず記入する。)						
問題なし		施設の健全度が i である場合 (部位の健全度全てがAの場合)						
監視		施設の健全度が ii である場合 (部位の健全度でBが一つでも含まれる場合)						
軽微な補修		施設の健全度が iii である場合 (部位の健全度でCが一つでも含まれる場合)						
補修・更新		施設の健全度が iv (部位の健全度でDが一つでも含まれる場合) であり、かつ要因が明らかである場合や対応方法が明確な場合						
要詳細調査		施設の健全度が iv であり、かつ要因が明らかでない場合や対応方法が明確でない場合						
緊急対応の必要性	有	【判断目安】①地すべりの再活動や新たな変状 ②災害等で施設が破損 ③人的被害発生 の懸念		状況と対応策				
	無							
■ 点検結果と対応の目安に対するコメント 変状の発生要因の推定、総合評価の判断理由等								